

令和5年度 第2回 宇都宮市民大学運営協議会

日 時 令和5年8月7日（月）
午後3時00分～午後4時00分（予定）
会 場 人材かがやきセンター研修室
(宇都宮市中央生涯学習センター5階)

次 第

1 開 会

(1) 委員紹介

2 議 事

(1) 報告事項

・報告第1号

令和5年度宇都宮市民大学前期専門講座の実施状況について・・・資料1

・報告第2号

令和5年度宇都宮市民大学後期専門講座の実施予定について・・・資料2

(2) 協議事項

・協議第1号

令和5年度宇都宮市民大学公開講座について・・・・・・・・・・資料3

・協議第2号

令和6年度宇都宮市民大学の実施方針について・・・・・・・・・・資料4

3 そ の 他

4 閉 会

宇都宮市民大学運営協議会委員名簿

任期：宇都宮市民大学運営協議会運営要領第4条の規定による期間
(令和4年9月1日～令和6年8月31日)

令和5年6月1日現在

No.	氏名	所属団体等役職
◎ 1	<u>しまだ</u> 島田 繁雄	宇都宮メディア・アーツ専門学校 学校長
○ 2	まるやま 丸山 純一	文星芸術大学 副学長 宇都宮市民大学講座企画運営選考委員
3	ながい 永井 康之	国立大学法人 宇都宮大学 地域創生推進機構 地域創生推進支援室長
4	おおいし 大石 和博	宇都宮共和大学都市経済研究センター 運営委員長 (シティライフ学部教授)
5	おおたに 大谷 佳久	株式会社 栃木放送 報道制作局長
6	さいとう 齋藤 明彦	株式会社 下野新聞社 編集局総務部長
◇ 7	のなか 野中 正知	公益財団法人 とちぎ未来づくり財団 常務理事兼事務局長
◇ 8	あかばね 赤羽 幸雄	とちぎボランティアNPOセンターぽ・ぽ・ら マネージャー
9	<u>きくち</u> 菊地 美子	宇都宮市生涯学習センター運営審議会 委員
10	ばば 馬場 知久	宇都宮市講座企画・運営ボランティアスタッフ グループ「宙」代表

◎ 会長 ○ 副会長 ◇ 監事

※下線は新任の委員

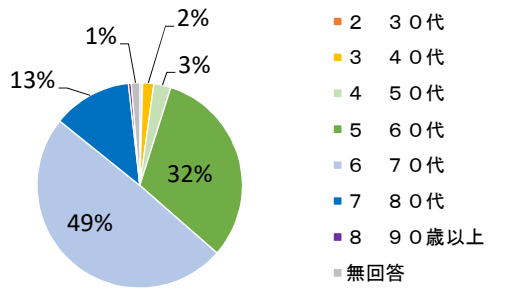
令和5年度宇都宮市民大学前期講座の実施状況について

コース	講座名 (開講数)	企画者 (グループ)	講師	開催期間	(募集定員) [応募者数] 受講者数	修了者数 (修了率)	講座の評価	(参考)受講者の感想・意見
I	下野の戊辰戦争 ～宇都宮藩を中心に～ (全8回)	ともしび	宇都宮市文化財保護審議委員会 委員 大嶽 浩良	5/23～ 7/11	(60) [102] 70	91.0%	旧幕府軍による宇都宮城占領、新政府軍による宇都宮城奪還の史実から宇都宮藩を中心として戊辰戦争を学ぶことにより、宇都宮と「戊辰戦争」との深い関わりについてより深く理解することができ講座となった。 栃木県の歴史について長年研究してきた大嶽氏による講座ということもあって募集定員を大きく上回る応募があり、満足度、修了率とも高い数字を記録した。 また、受講者アンケートから、学習した史跡を早速訪問したいという受講生に加え、既に見学したことはあるが再度訪れたいという受講生も多数おり、講座終了後の自主学習にもつなげることができた。	■満足度 98% ■感想 ・凶書や地域の街歩き講座などでは知っていたものの、より深くその背景が分かり大変興味深かった。 ・単に資料の文字面を読んで説明されるのではなく、講師ご自身による調査・研究から具体的な戊辰戦争を学ぶことができた。 ・幅広い知識をたくさんお話してくださり、非常に勉強になった。知らないことばかりで、驚きの連続だった。 ・なぜこのような無為な戦いがあったのか考えさせられた。 ・講義内容の面白さと講師の軽妙な話術が楽しかった。
II	宇都宮の底力 ～新たな「エネルギー」と「まちづくり」～ (全6回)	七福人	宇都宮大学国際学部 教授 高橋 若菜 ・ 宇都宮大学学生(特) うつのみや環境行動フォーラムエネルギー管理士 今出 善久 一般社団法人 ソーラーシステム振興協会 専務理事 原 人志 クラフトワーク株式会社 専務取締役 益子 暁式 宇都宮市環境創造課 職員 吉田 朝実 (特) うつのみや環境行動フォーラム再生可能エネルギー部会メンバー 宇都宮大学地域デザイン科学部 准教授 石井 大一朗・宇都宮大学学生	5/26～ 6/30	(60) [31] 26	92.3%	持続可能な様々なエネルギーや脱炭素化社会に向けた取組、空き家の再生で街を元気にする活動などについて学ぶことにより、「エネルギー」や「まちづくり」などの身近なテーマを自分の問題として捉え、理解を深める講座となった。 募集定員に対し応募者数はその半数余りであったが、グループワークやその成果発表を含んだワークショップ形式を取り入れることで、受講生同士の交流を通じてより深い学びにつながり、修了率は90%を超えており、講義形式としては適切な人数であったと考えられる。 SDGsをテーマとした講座は社会の要請に応える講座であることから、今後もSDGsを身近に感じるなど受講希望につながるよう工夫をしながら開催していく。	■満足度 88% (やや不満1人, 無回答2人) ■感想 ・ワークショップで専門分野の人や同じテーブルの人たちとの話し合いや内容の確認ができて良かった。 ・現在の宇都宮の底力を学んだように思う。特に空き家については自分も保有しているので興味があり、勉強になった。 ・宇都宮の魅力と未来についての考え方が参考になった。根本的な意識改革や教育の必要と思える事項もあった。 ・老活中の身で、住み慣れた家、街中であって、自然が残っている庭をどうすれば良いか考えていた。「空き家会議」の存在等について知ることができて良かった。
II	幸せな暮らしのためのデジタル化・パート2 ～ここまで進歩してきた科学と技術の世界～ (全7回)	宙	帝京大学工学部 情報電子工学科 教授 小川 充洋 帝京大学工学部機械・精密システム工学科 助教 福田 直紀 帝京大学工学部情報電子工学科 教授 浜田 宏一 帝京大学工学部情報電子工学科 教授 棚本 哲史 帝京大学工学部情報電子工学科 准教授 室 幸市 帝京大学工学部機械・精密システム工学科 講師 三橋 郁 帝京大学工学部航空宇宙工学科 講師 高橋 綾香	5/27～ 7/8	(60) [39] 38	86.8%	令和4年度のパート1から引き続き、AI技術や光学など日々進化を続けている最先端の技術について、各専門分野の講師から具体的に学ぶことにより、新しいデジタル化の流れを学ぶことができる講座となった。 受講者数は定員を下回り、また、土曜日の開催であったことから平日の講座に比べ欠席者も多く、修了率も低くなったが、保護者同伴の高校生をはじめとした10代から50代の参加が17%を占め、平日の日中の時間帯には参加できない層の受講につながったほか、満足度も100%を記録した。 AIやチャットGPTなど、現代社会のデジタル化が進む中で必要となる知識が学べるなど、社会の要請に応える講座であることから、今後も実施方法を工夫しながら開催していく。	■満足度 100% ■感想 ・それぞれの講義が近年興味深い内容で、講師の方々が最新の情報やご自身の経験を交えて話してくれたので楽しく受講できた。 ・専門性が高い内容だが知らない言葉を調べることで興味もてた。先生方には解り易い言葉で講義をしていただけだったので良かった。 ・チャットGPTなど人工知能に関する報道について、ここ1か月大きな変化があり、これらの技術を学び時代に後れを取らないようにしたいと思った。
III	松尾芭蕉の生涯と下野の「おくのほそ道」 ～曾良と共に歩く、間々田宿から遊行柳まで～ (全8回)	宙	大田原市黒羽芭蕉の館 学芸員 新井 敦史 元那珂川町なす風土記の丘資料館 館長 「下野のおくのほそ道を歩く」 著者 那須歴史探訪館 学芸員 桑野 正光 作間 亮哉	5/22～ 7/10	(60) [117] 65	95.0%	日本古典の代表的紀行作品である「おくのほそ道」に読み込まれた多数の俳句や栃木県内での足跡を学ぶことにより、松尾芭蕉の真の姿に触れることができる講座となった。 募集定員の約2倍の応募があったことに加え、講義での詳細な資料による説明や受講生全員による「おくのほそ道」の朗読、館外学習での現地の空気に触れ、句碑を実際に見ながらの解説など、学習の手法を工夫したことが高い満足度と修了率につながったものと考えられる。	■満足度 98% ■感想 ・松尾芭蕉がこんなに栃木と関わりがあったことを初めて知った。 ・館外学習が良かった。机上の講義でなく現場、現物を見たことでより身近に感じ、学びの理解へとつながった。 ・話しが分かりやすく、解説が良かった。今度は自分の足で芭蕉の足跡を巡りたい。 ・先生方が熱心に語ってくださったので講義に聴き入った。
III	和紙と芸術 ～日本の伝統素材を中心に～ (全6回)	文星芸術大学連携	文星芸術大学美術学部 准教授 中村 寿生 文星芸術大学美術学部 助教 繁村 周 文星芸術大学 学長 田中 久美子 文星芸術大学美術学部 非常勤講師 元鹿沼市立川上澄生美術館 館長 文星芸術大学美術学部 非常勤講師 青木 理 伊良原 満美	6/6～ 7/11	(60) [45] 42	97.6%	日本の美術品における和紙との関わりについて、文星芸術大学との連携講座を全6回にわたり学ぶことにより、様々な角度から学ぶ講座となった。 受講者数は定員を下回ったものの、各回とも講師による実演の披露や受講生による実習を導入したことで、机上だけでは学べないことも多かったことから、高い満足度、修了率を記録し、受講生にとって充実した学習機会の提供につながったものと考えられる。	■満足度 100% ■感想 ・各回の先生方が、座学だけでなく、実習を見せてくれたことでより理解が深まった。今回の講座内容は、これまでで私が一番感銘を受けたシリーズだった。 ・6回の講座全て面白く、楽しかった。内容が初回から最終回まで系統立てられていて充実していた。 ・実践をしたので学びが深まった。紙を見たときに材料が何なのか興味を持った。 ・各講師の先生方が非常に熱意を込めて講義をなされて、大変ありがたかった。
III	身近な科学の不思議 ～実験・工作を通して考え、楽しもう～ (全6回)	みやの塾	宇都宮大学 名誉教授 田原 博人	5/25～ 6/29	(40) [43] 41	92.7%	実験をメインとした体験型講座であり、様々な実験や工作を通じて主体的に楽しみながら学ぶことにより、生活と科学との関わりについての理解が深まる講座となった。 令和4年度は土曜日の午前中に同様の講座を実施し、定員を下回ったところであるが、今年度は平日に実施したところ、定員を上回る応募があった。また、毎回同じ班で実験する講義形式を採用したことで、回を重ねるごとに受講者同士が自然に話し合うなど仲が深まり、コミュニケーションの円滑化が図られ、高い満足度、修了率を記録した。 このほか、講師が独自に受講生の感想や意見などを募り、次の講義の際に講師からの回答を配り、フィードバックする形式をとったことも、受講生の深い学びにつながったものと考えられる。	■満足度 100% ■感想 ・身近な材料を使った講座で、肩ひじ張らずに参加でき、とても良かった。先生も生徒も一体となって受講できた。 ・身近な生活の中にも、色々な科学があるのだなあと感心した。ボーッとしていないで、色々なことに気づいたり考えたりすることで、いつもの生活がイキイキしてくるような気がした。 ・孫と遊びながら復習しようと思う。 ・当たり前だと思っていたことに疑問をもつことの面白さ、それを実験することの楽しさを実感できた。
【コース名】 I 郷土を愛する「宇都宮学」コース II 今を読み解く現代社会コース III 暮らしを彩る文化・教養コース				募集定員	340人	【総合的な評価】 6講座中3講座で定員を超える申込みがあり、キャンセルを見込むなど可能な限り定員を増やし受講決定をした。館外学習やワークショップ、実験など受講生同士で活動する学習方法も再開できたことが、高い満足度や例年と同水準の修了率を維持できたことにつながったものと考えられる。 受講者アンケートでは、成果が「とてもあった」「わりとあった」との回答と、満足度について「満足」「やや満足」との回答が、ともに全体の98%を占めたことから、各講座とも高度で専門的な学習機会を提供する、受講生の知的好奇心を刺激する企画内容であったものと推察される。 【今後の取組方針】 引き続き、高い満足度を維持できるよう、受講者アンケートの結果などを踏まえ、実施方法の見直しや体験型の手法の導入などしながら幅広い学習機会の提供に努める。		
				応募者数	287人			
				受講者数	282人			
				修了者数	262人			
				修了率(修了者/受講者)	92.9%			

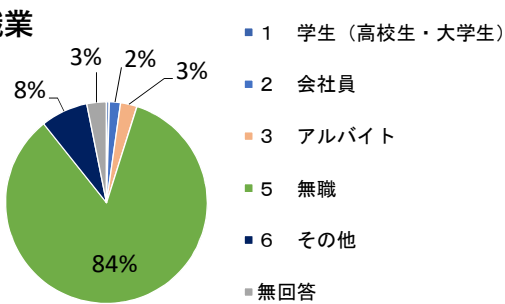
※修了者数は、4分の3以上の出席者

1 受講者数 282名
 2 アンケート回答数 223名
 3 アンケート回収率 79.1%

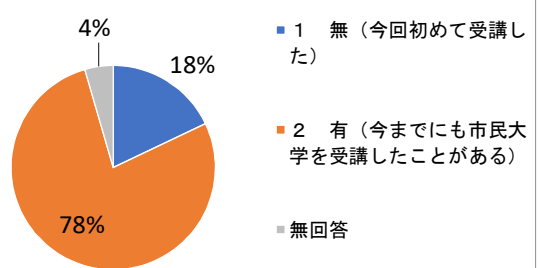
年齢



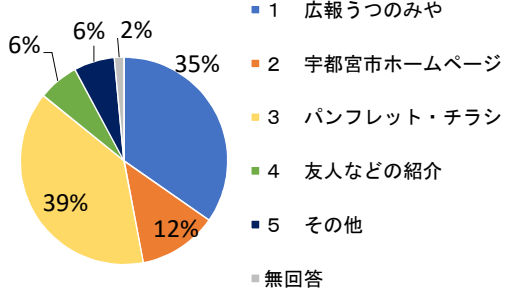
職業



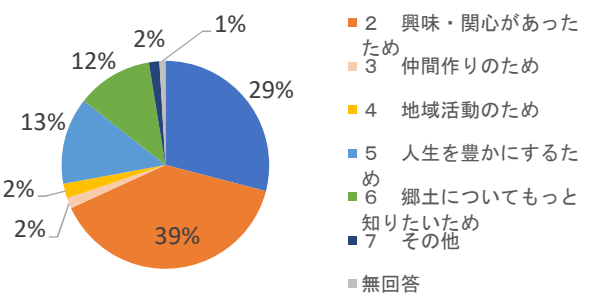
受講経験



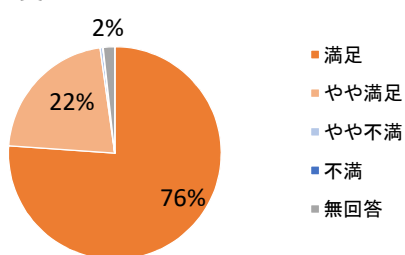
何で知ったか



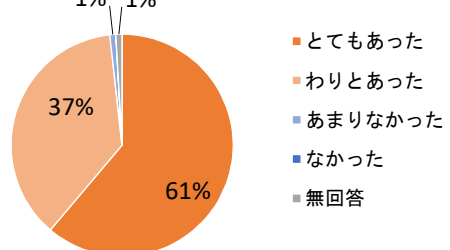
受講動機



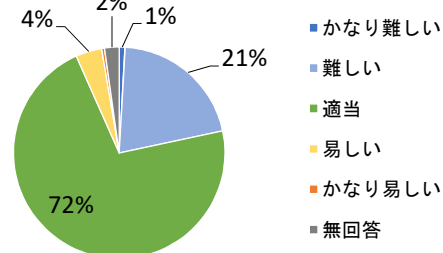
満足度



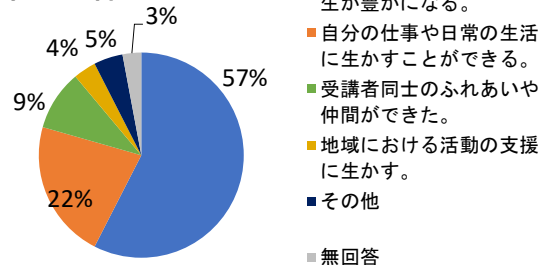
成果



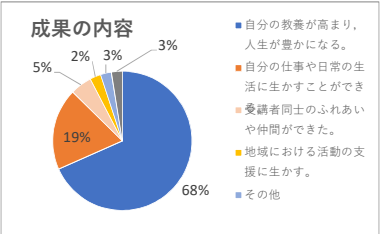
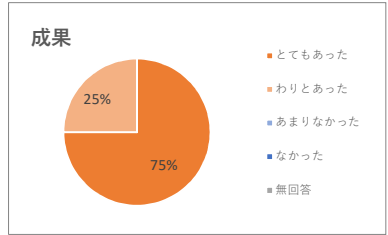
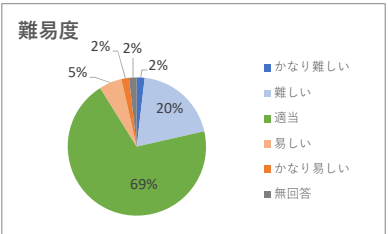
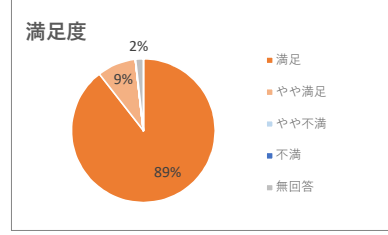
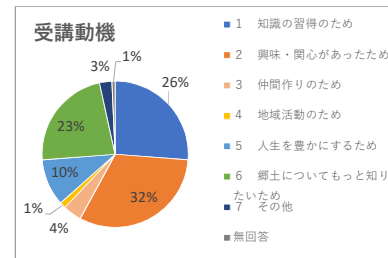
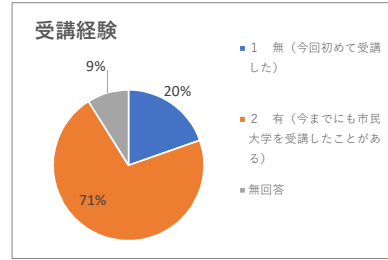
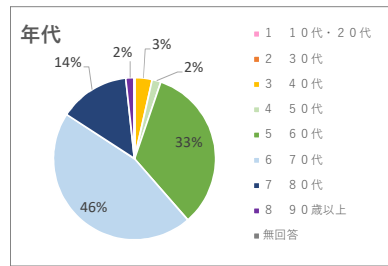
難易度



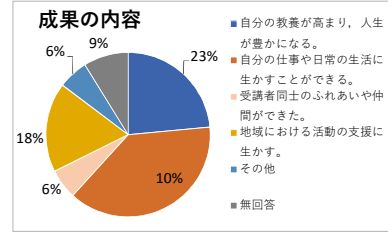
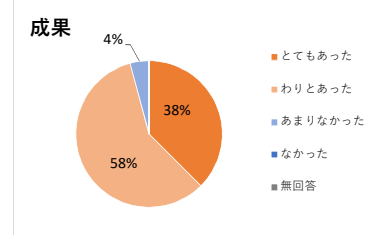
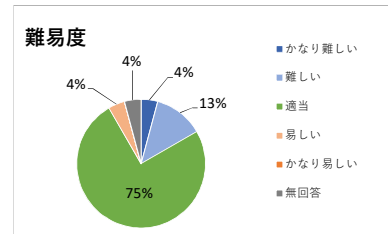
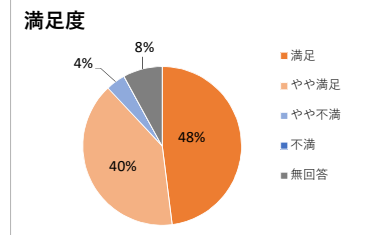
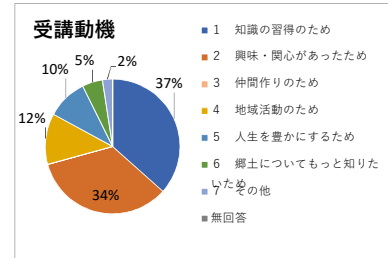
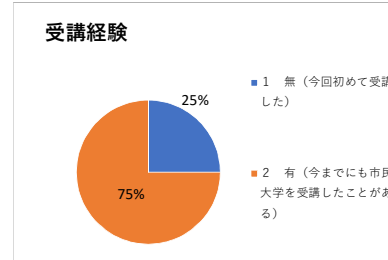
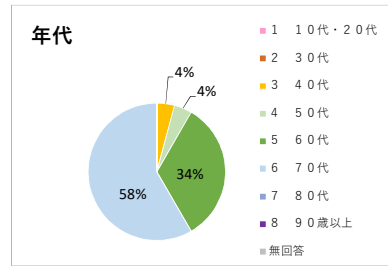
成果の内容



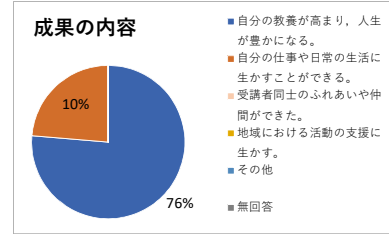
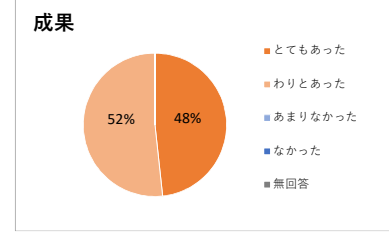
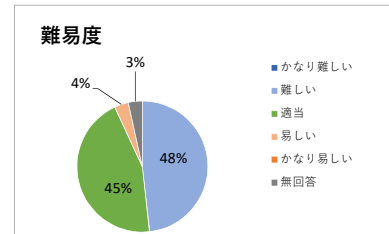
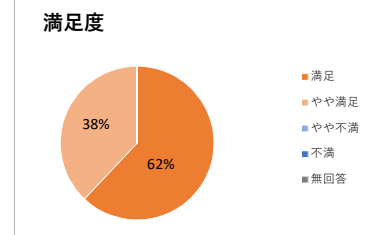
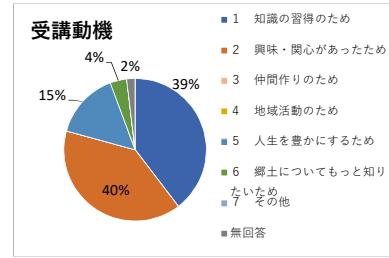
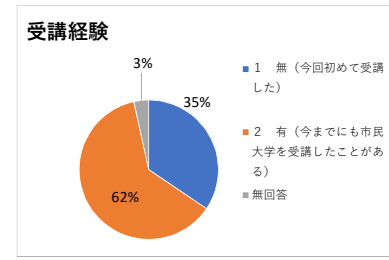
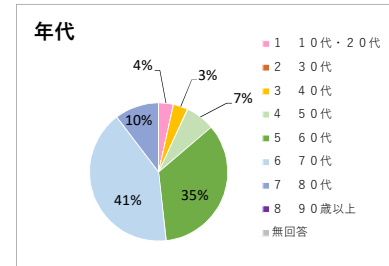
1 下野の戊辰戦争



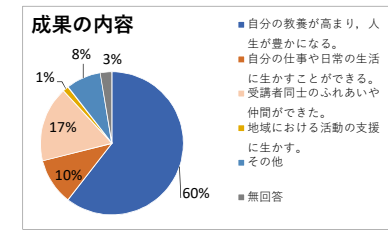
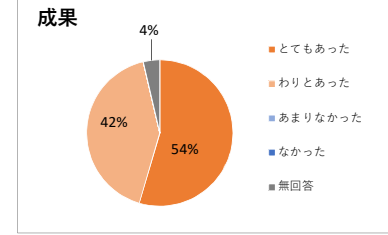
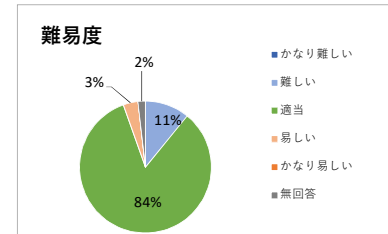
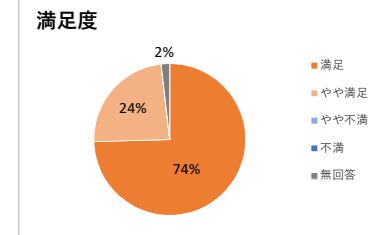
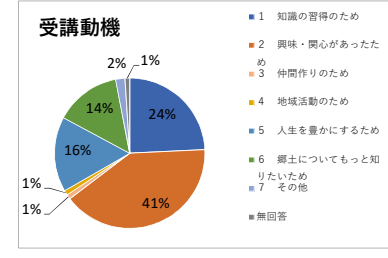
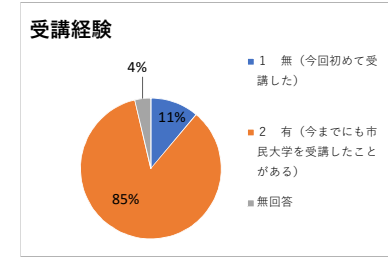
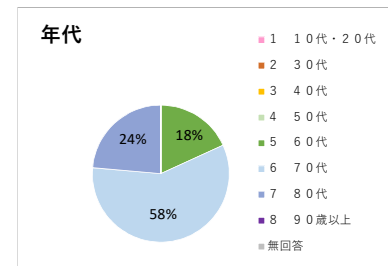
2 宇都宮の底力



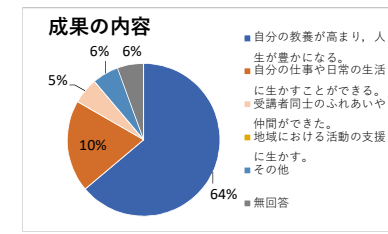
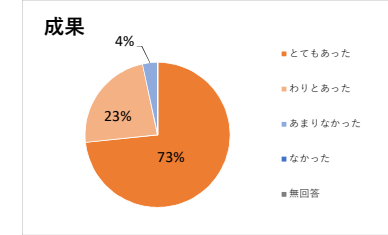
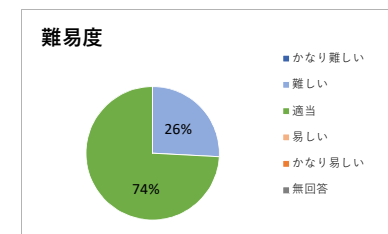
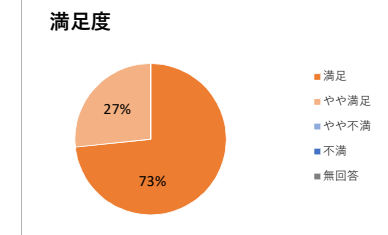
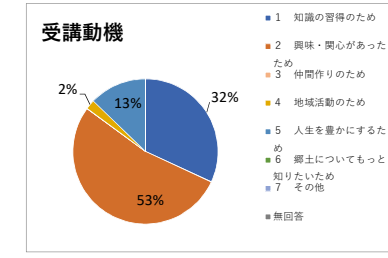
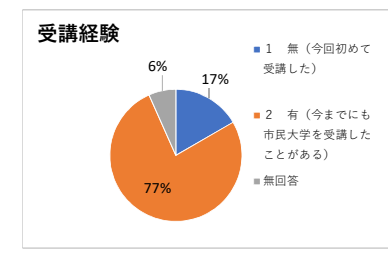
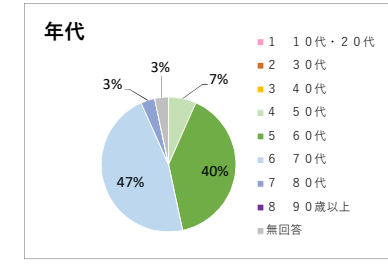
3 幸せな暮らしのためのデジタル化・パート2



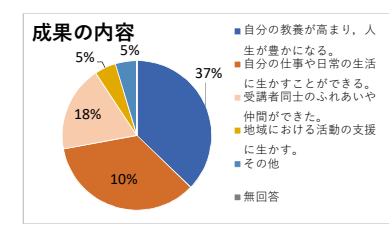
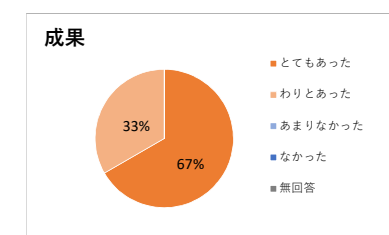
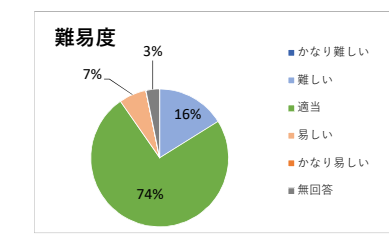
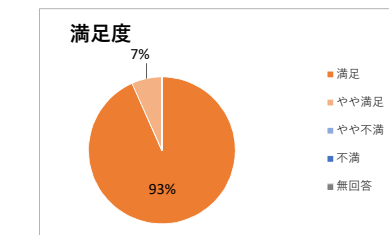
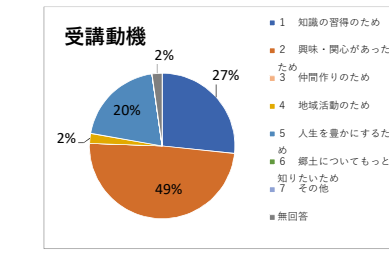
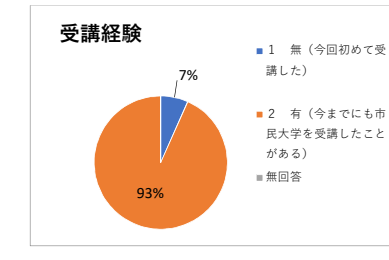
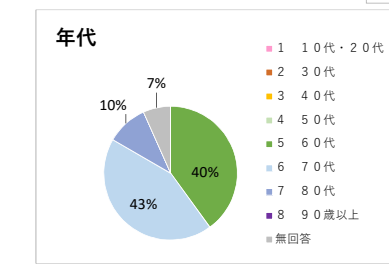
4 松尾芭蕉の生涯と下野の「おくのほそ道」



5 和紙と芸術



6 身近な科学の不思議



令和5年度宇都宮市民大学後期専門講座の実施予定について

講座企画・運営ボランティアスタッフ企画講座を4講座（No.1. 2. 5. 6）、大学連携講座【作新学院大学・作新学院大学女子短期大学部】を1講座（No.4）、事務局企画枠【令和4年度講座企画・運営ボランティアスタッフ養成講座修了生企画講座】を1講座（No.3）の計6講座を実施する。

【後期専門講座の特徴】

- ・ 一部講座の定員拡大

今年は開講30周年を迎えたことから、市民大学の更なる周知や新規受講者の獲得を図るため、「他人（ひと）に寄り添う、自分に寄り添う」（No.1）の最終回を定員拡大し、公開して実施する。

- ・ 録画配信コースの導入

応募者数が定員を上回ることが見込まれる「みる！知る！わかる！慶派の仏像」（No.3）では、宇都宮メディア・アーツ専門学校との連携により「録画配信コース」を導入し、講座を実施する。

- 1 開催期間 令和5年10月～12月
- 2 開催回数 5回～7回
- 3 定員 60名（柳田邦男氏の講座のみ160名）

【後期専門講座内容】

No.	講座名	開催期間 (開催曜日・時間帯)
1	Ⅱ 今を読み解く現代社会コース 「他人（ひと）に寄り添う、自分に寄り添う」（全7回） ※ 最終回（11/28）に柳田邦男氏による講演会を実施予定 (場所：宇都宮美術館 講義室 定員：160名)	10月17日～11月28日 (火曜日 午前)
2	Ⅱ 今を読み解く現代社会コース 「知られざるキノコの世界」（全6回）	10月31日～12月5日 (火曜日 午後)
3	Ⅲ 暮らしを彩る文化・教養コース 「近くて遠い国『中国』を知る」（全7回） 【事務局枠：令和4年度Vスタッフ修了生企画講座】	10月27日～12月15日 (金曜日 午前)
4	Ⅲ 暮らしを彩る文化・教養コース 「作新 心と身体健康講座」（全6回） 【作新学院大学・作新学院大学女子短期大学部連携講座】	10月26日～12月7日 (木曜日 午後)
5	Ⅲ 暮らしを彩る文化・教養コース 「『吉澤章』命を宿す創作折り紙」（全7回）	10月27日～12月15日 (金曜日 午後)
6	Ⅲ 暮らしを彩る文化・教養コース 「みる！知る！わかる！慶派の仏像」（全5回） ※ 「対面受講コース」と「録画配信コース」の選択制	11月12日～12月7日 (木曜日 午前)

※ 会場：人材かがやきセンター研修室（中央生涯学習センター5階）、作新学院大学ほか

※ 午前：10時から正午、午後：2時から4時

令和5年度宇都宮市民大学公開講座について

令和5年度も、市民大学の更なる周知と認知度向上を図るため、前年度に引き続き、多くの方々に関心を持たれるような内容となるよう、各分野の第一人者（著名人等）による講義等とする（裏面「講師候補」参照）。

■ 令和5年度宇都宮市民大学公開講座の実施概要 （第1回宇都宮市市民大学運営協議会の協議事項）

- (1) 実施日 令和6年2月24日（土）
- (2) 会場 宇都宮市文化会館又はライトキューブ宇都宮
- (3) 実施内容等 生涯学習に対する社会の要請や、市が推進する地域教育の理念を踏まえ、社会的関心や今日的課題に対応した講座内容及び講師を選定する。
 - ・ 講師の選定や開催手法等については次回の運営協議会にて協議
- (4) 受講料 1,000円程度を想定

【参考：令和4年度公開講座】

令和4年度は、「はやぶさ・はやぶさ2の挑戦」と題し、JAXA元はやぶさ2ミッションマネージャの吉川真氏を講師に迎え、参集型とオンライン型を組み合わせたハイブリッド型で開催した。438名の方から申込みがあり、そのうち新規申込者は311名、19歳以下の申込者は101名を占めるなど、青少年を含めた多くの市民にとって関心が高い内容であった。

■ 講師候補

◎ 栗山 英樹 (東京都小平市出身)

- ・1984年 ドラフト外で入団，プロ野球選手の道を歩む
- ・1989年 中堅手としてゴールデンクラブ賞を受賞
- ・1990年 シーズン終了後現役引退
スポーツジャーナリストや白鷗大学教授として活躍
- ・2011年 北海道日本ハムファイターズ監督に就任
リーグ優勝2回，日本一1回
- ・2023年 第5回WBCの監督に就任し，3大会ぶりの優勝を果たす



◎ 門井 慶喜 (栃木県宇都宮市出身)

- ・同志社大学文学部卒業
- ・2003年 「キッドナッパーズ」で第42回オール読物推理小説新人賞を受賞し，作家デビュー
- ・2016年 「マジカル・ヒストリー・ツアー ミステリと美術で読む近代」で第69回日本推理作家協会賞（評論その他の部門）受賞
- ・2018年 「銀河鉄道の父」で第158回直木賞を受賞



◎ 坂本 和加 (栃木県宇都宮市出身)

- ・貿易商社OLからコピーライターへ
- ・一倉広告制作所を経て2016年独立
- ・合同会社 コトリ社代表
- ・企業・学校団体向けのコピーライティング技術を用いたワークショップなども実施
- ・主なコピー：「カラダに、ピース。カルピス」「行くぜ、東北。JR東日本」「WAON (ネーミング)」
- ・受賞歴：毎日広告デザイン賞最高賞，朝日広告賞最高賞，カンヌ国際広告祭ゴールドなど



◎ 紗栄子 (大田原市在住)

- ・モデル，タレント
- ・牧場「NASU FARM VILLAGE」経営
- ・緊急事態宣言が明けて牧場に行った際，牧場の危機を知って再建を決意



令和 6 年度宇都宮市民大学の実施方針について（案）

1 令和 6 年度市民大学について

(1) 実施方針

本市の社会教育分野において最も基本となる計画である「第 3 次宇都宮市地域教育推進計画後期計画」に基づき、市民のスキルアップやキャリアアップに生かせる高度で専門的な学習ニーズに応えるとともに、「生涯学習センター主催講座」や「人材かがやきセンター主催講座」との差別化を図り、本市の生涯学習事業の中で唯一の有料講座として、心豊かに市民生活を送るための教養講座や、郷土愛を育む地域の文化・歴史講座など、市民の学ぶ意欲を高め、生きがいや精神的な豊かさなど市民生活に潤いを与える学習機会の提供に引き続き取り組む。

令和 6 年度については、令和 5 年度の実施状況や課題などを踏まえ、以下の点に取り組む。

- ・ 体験型学習の実施
講座内容に応じて体験的な活動を多く取り入れると受講者の満足度が高くなる傾向にあることから、引き続き、講座内容に応じて多様な学習方法を取り入れていく。
- ・ 定員の引き上げ
新型コロナウイルス感染症の感染症法上の位置付けが 5 類感染症であることを踏まえ、抽選の結果落選となる応募者が極力少なくなるよう、定員の上限を 80 名に引き上げる。
- ・ 開催時間帯の検討
従来は日中のみの開催であることから、今後新規受講者の獲得のため、新たな開催時間帯（早朝や夜間など）も視野に入れて検討する。

(2) 公開講座

多くの市民が一堂に会する学習機会を提供し、市民大学の更なる周知による認知度の向上と市民の受講促進を図る。

- ① 実施時期 令和 7 年 2 月頃（後期講座閉講後）
- ② 会場 宇都宮市文化会館小ホール等
- ③ 講師 著名人等
- ④ 受講料 1,000 円程度

公開講座実施の詳細については、令和 6 年 8 月に開催予定の運営協議会において協議する。

(3) 専門講座

専門講座のコース設定は令和 5 年度と同様の 3 コースとする。
実施講座数は令和 5 年度と同様 12 講座とし、定員の上限は 80 名とする。また、開講式は各専門講座ごとに実施する。

① コース設定（3コース）

ア 郷土を愛する「宇都宮学」コース

郷土「宇都宮」の歴史や文化、産業、自然、民俗など「宇都宮」の特質や魅力について学び、「宇都宮」に誇りや愛着をもつための講座

※ 開催回数の半数以上が宇都宮（人・物・歴史等）に関する内容であることを条件とする。

イ 今を読み解く現代社会コース

個人や社会を取り巻く環境がめまぐるしく変化する現代社会において、より賢く快適に暮らしていくため、社会の流れを読み解き、暮らしや地域コミュニティに活かしていく知恵を学ぶ講座

ウ 暮らしを彩る文化・教養コース

芸術・文学・科学のほか、先進技術など広範で学術的なテーマから深い教養を身に付け、潤いのある生活を送るための講座

※ 宇都宮市以外の地域をテーマとした文化・歴史などが対象となる。

② 実施講座数（12講座）

ア 前期（5月下旬～7月中旬） 6講座

- ・ 内訳 Vスタッフ企画 - 5講座，大学連携 - 1講座

イ 後期（10月下旬～12月初旬） 6講座

- ・ 内訳 Vスタッフ企画 - 4講座，大学連携 - 1講座，事務局枠 - 1講座

③ Vスタッフ企画講座の選考方法

ア 募集要項 ⇒ **別紙4**参照

イ 選考会の実施

選考の透明性を確保し客観的な視点から講座を選考するため、専門的な知識を有する委員による講座企画運営選考委員会（以降、「委員会」という。）を開催する。

⇒ **別紙5**参照

なお、Vスタッフのスキルアップと委員会の実施状況の周知や理解促進のため、Vスタッフの希望者は、委員会の傍聴や模擬審査への参加を認める。

ウ 実施講座の決定

委員会の選考結果を踏まえ、運営協議会において決定する。

④ 受講者の決定方法

ア 申込者が募集定員以内の場合

- ・ 申込者全員を受講者とする。

イ 申込者が募集定員を超えた場合

- ・ 講師等との調整により、定員の増員について検討する。
- ・ 次の者を優先的に受講決定する。

① 今回初めて市民大学に申込みをした者

- ② 前回の抽選で落選となり、講座をひとつも受講できなかった者
- ③ 今回複数の講座に申込みをし、その講座全てが抽選となる者

③ 館外学習の実施について

- ア 館外学習における事前調査行程表は、企画者が作成する。
- イ 採用された企画に館外学習が予定されている場合、講座を実施する上で現地学習の実現性を、企画者が作成した事前調査行程表を基に事務局が検討し、内容に応じて現地学習から座学へ変更することもある。
- ウ 館外学習実施が確定した企画において、企画者が作成した事前調査行程表の内容が適切か、また安全上問題はないかを事務局が確認する。
- エ 受講者の館外学習における費用は、実費負担とする。
- オ 館外学習における講師、企画者及び事務局同行者の費用は、事務局が負担する。

(4) 大学連携

専門講座における市内6大学との連携講座を引き続き実施する。

- 令和6年度 前期 宇都宮共和大学（予定）
- 後期 帝京大学（予定）

【参考】

	令和3年度		令和4年度		令和5年度		令和6年度	
	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
宇都宮短期大学			○					
宇都宮大学				○				
文星芸術大学					○			
作新学院大学						○		
宇都宮共和大学	○						○	
帝京大学		○						○

2 今後のスケジュール

時期	内容
8月下旬	第1回講座企画・運営ボランティアスタッフ連絡会議 ・ 令和6年度専門講座企画募集要項等の説明
10月中旬	専門講座企画募集の締め切り、書類審査
11月上旬	講座企画運営選考委員会 ・ プレゼンテーション審査、企画選考
11月下旬	第3回運営協議会 ・ 実施講座の決定

令和6年度宇都宮市民大学専門講座企画募集要項（案）

I 令和6年度市民大学について

別紙 参考 「令和6年度宇都宮市民大学の実施方針について」 参照

II 市民大学専門講座の募集概要

次のとおり、専門講座の企画を募集する。

1 募集分野（コース）

（1）郷土を愛する「宇都宮学」コース

（※開催回数の半数以上が宇都宮（人・物・歴史等）に関する内容であるもの）

（2）今を読み解く現代社会コース

（3）暮らしを彩る文化・教養コース

2 募集講座数

各コース合わせて9講座

3 応募資格

宇都宮市講座企画・運営ボランティアスタッフ（Vスタッフ）の個人又はグループを対象とする。

4 応募方法

（1）応募受付期間

令和6年9月15日（金）から10月6日（金）

（2）提出書類

- ① 令和6年度宇都宮市民大学専門講座応募申込書
- ② 令和6年度宇都宮市民大学専門講座企画書（様式1）
- ③ 令和6年度宇都宮市民大学専門講座企画書（学習プログラム）（様式2）

（3）提出先

宇都宮市民大学事務局（人材かがやきセンター内）

（4）提出方法

直接、メール又は郵送

※ 応募書類の返却は不可

※ 提出書類の様式について、データによる提供を希望する方は、
college@city.utsunomiya.tochigi.jp あてご連絡ください。

5 講座決定までの流れ

(1) 予備審査の実施

応募された企画を対象に、事務局による応募書類の確認を行う。

(2) 宇都宮市民大学講座企画運営選考委員会の実施

書類審査を通過した企画は、令和6年11月上旬に、選考委員会によるプレゼンテーション審査を実施する。講座企画運営選考委員会の日程については、応募書類提出後に改めて通知する。

(3) 宇都宮市民大学運営協議会における審議

上記選考委員会の審査結果を運営協議会に報告し、審議の上、採用する企画を決定する。選考結果については、応募グループ代表者に一括して通知する。

6 講座企画者の役割

採用された講座の企画者は、講座企画運営選考委員会の意見を取り入れるとともに、事務局担当者と協力して、講座内容のより一層の充実を図る。

また、講師との調整、広報紙等の校正協力のほか、講座当日の会場設営・進行・後片付けなど講座開催に関する業務を、事務局職員等と協力して主体的に担う。

7 講座企画上の留意点

- (1) 講座回数は、6～7回を標準として8回を限度とする。
- (2) 1回の講座時間は、2時間とする。
- (3) 定員は、80名を上限とする。
- (4) 開催時期について、前期講座は5月下旬～7月中旬、後期講座は10月下旬～12月上旬とし、同じ曜日、同じ時間帯を原則とする。
- (5) 会場は、人材かがやきセンター研修室（中央生涯学習センター5階）を使用すること。それ以外の会場を使用する場合は、企画書に必要性を併せて明記すること。
- (6) 受講料は、開講時に事務局が徴収する。（1回500円×講座回数分）
- (7) 受講料のほかに材料費やテキスト代が想定される場合は明記すること。
- (8) 託児サービスは、令和6年度も実施しない。
- (9) 営利目的や特定の政党・候補者の利害に関すること、特定の宗教・教派・教団を支援する内容は認められない。
- (10) 講座の講師予定者と事前に連絡や相談などを行う場合には、講座は企画の段階であり、講座開催が確定していない旨を説明し、講師に誤解を与えることのないよう留意すること。
- (11) 講師謝金は、「市民大学における講師謝金」に基づき支出する。
なお、講師謝金については事務局で判断することから、具体的な謝金等については講師予定者に提示しないこと。（交通費も同様とする。）

(12) 講座決定後、館外学習を実施する場合は、予定している行程表を作成すること。

8 その他

- (1) 募集期間中における応募状況や他の企画内容についての問い合わせは不可とする。
- (2) グループ企画については、通知等をグループ代表者に一括して送付する。
- (3) 令和6年度の講座数は、Vスタッフ企画9講座、大学連携講座2講座、事務局企画1講座の計12講座とする。

【大学連携講座】

令和5年度 文星芸術大学、作新学院大学・作新学院大学女子短期大学部
令和6年度（予定）宇都宮共和大学、帝京大学

- (4) 採用された企画には、企画運営に必要な費用を講座企画運営費として実費を交付する（1講座3万円を上限）。（予定）
- (5) 募集要項に記載のない事項については、事務局に確認すること。
- (6) 応募申込書、企画書（様式1）、企画書学習プログラム（様式2）について、データ提供を希望する場合は、事務局に申し出ること。

「審査項目」と「審査基準」

(「プレゼンテーション審査マニュアル」より抜粋)

審査項目は、下表のとおりとする。

1 審査項目

(1)	社会ニーズ	社会の変化や要請，地域の特性や文化など，本市のまちづくりやコミュニティの発展，あるいは市民の郷土理解に資する社会的な視点やねらいが盛り込まれているか。
(2)	市民ニーズ	市民が求める高度で専門的な学習ニーズをとらえているか。
(3)	構成力	設定された講座のねらいに沿った各回の展開や組み立てがされているか，また実習やワークショップなど，学習効果を高めるための工夫がされているか。
(4)	運営力	適切な講師の想定，事前準備や講座運営に対する考え方など，確実に講座を運営していくための体制が整っているか。 <u>ただし，企画応募条件において，講師の確保までは求めないこととしているため，想定講師の受諾については審査に加味しない。</u>
(5)	発展性	講座を契機とするネットワークの形成，学んだことを実践し，生かせる仕組みづくりや導入，リーダー養成に資するスキルの習得など，受講者の行動や考え方の変化を促す効果があるか。

2 審査基準

点数	審査基準
5	とても優れている
4	優れている
3	やや優れている
2	やや劣っている
1	劣っている

令和6年度宇都宮市民大学専門講座応募申込書

令和 年 月 日

別紙の企画書（様式1）及び企画書学習プログラム（様式2）のとおり、
令和6年度宇都宮市民大学専門講座企画募集に応募いたします。

代表者 氏名	
住所	〒 宇都宮市
連絡先等	(自宅) 028 () (FAX) 028 () (携帯) - - (Email)
備考	

※ 個人情報については、宇都宮市民大学事業に使用させていただきます。
事業目的以外には使用いたしません。

※ 御不明な点は、生涯学習課（632-2674, 6332）担当：児矢野まで
お問い合わせください。

7	会 場	人材かがやきセンター研修室
8	受 講 料	円 (回×500円) 実費徴収 <input type="checkbox"/> 有 (目的: , 金額: 円) <input type="checkbox"/> 無
9	収 支 (見込み)	○ 受講料収入: 円 (名× 円) ○ 講 師 謝 金: 円 ※講師謝金一覧に基づく, おおむねの謝金額 (交通費も含む) 【算出根拠】 _____ _____ ○ 差 し 引 き: 円
10	ス タ ッ フ	企画者 人
11	そ の 他 特記事項	・ ・

令和6年度宇都宮市民大学専門講座企画書

様式 1

企 画 者	(グループ名がある場合は名称) あさひ			
	企画者氏名(養成講座修了年度) ※グループ代表者に◎印, 企画代表者に○を付ける			
	①	栃木 太郎 (平成13年度)	5	横川 明子 (平成19年度)
	2	宇都宮 花子 (平成13年度)	6	養成講座修了年度を記入 (平成 年度)
	③	平石 次郎 (平成14年度)	7	(平成 年度)
4	清原 (平成17年度)	8	(平成 年度)	

グループ代表者に◎を付ける

1	コ ー ス 分 類	<input checked="" type="checkbox"/> 郷土を愛する「宇都宮学」コース ※開催回数の中半数以上が宇都宮(人・物・歴史等)に関する内容であるもの <input type="checkbox"/> 今を読み解く現代社会コース <input type="checkbox"/> 暮らしを彩る文化・教養コース	
		当てはまるコースの <input type="checkbox"/> を塗りつぶす	
2	講 座 名 サ ブ タ イ ト ル	「今こそ陶芸から学ぶ」 ～世界, 地域, 教育の視点から陶芸について考える～	
3	希 望 期 間	○第1希望 (①)	① 前期 (5月下旬～7月)
		○第2希望 (×)	② 後期 (10月中旬～12月上旬)
4	希 望 曜 日 時 間 帯	○第1希望 火 曜日 時間帯 (②)	①早朝 (午前6時～8時)
		○第2希望 月 曜日 時間帯 (③)	②午前 (午前10時～正午)
		○第3希望 木 曜日 時間帯 (②)	③午後 (午後2時～4時)
		※水曜日の午前, 午後は一般研修等により研修室は使用できません。	
5	定 員	80名	令和6年度は, 上限80名
6	内 容	全 7 回 詳細は別紙様式2学習プログラムのとおり	

7	会 場	人材かがやきセンター研修室
8	受 講 料	3,500円 (7 回×500円) 実費徴収 <input checked="" type="checkbox"/> 有 (目的 陶芸実習材料費 金額: 1,000 円) <input type="checkbox"/> 無
9	収 支 (見込み)	<p>講座に係る収支を記載</p> <p>講座の回数を記入</p> <p>○ 受講料収入: 105,000 円 (30 名× 3,500 円)</p> <p>○ 講 師 謝 金: 210,000 円 ※講師謝金一覧に基づく, 概ねの謝金額 (交通費も含む) 【算出根拠】 <u>全回・大学教授クラス 30,000円×7回</u></p> <hr/> <p>○ 差 し 引 き: ▲105,000 円</p>
10	ス タ ッ プ	10 人程度 (企画者 7 人, 運営ボランティア 3 人)
11	そ の 他 特 記 事 項	<ul style="list-style-type: none"> ・ 陶芸実習を1回 (1日) 予定 ・ 期間については, 予定している講師の都合により「前期」にしか設定できません

No. _____

様式 2

令和6年度宇都宮市民大学専門講座企画書（学習プログラム）

講座名 サブタイトル	
企画の目的 必要性・効果	
講座概要	
実施に伴う 課題・対応	
アピール ポイント	

回	期日	テーマ	ねらい	
1	月 日 ()			
		内 容	学習方法	講 師
			<input type="checkbox"/> 講義 <input type="checkbox"/> 実技等 <input type="checkbox"/> ワークショップ <input type="checkbox"/> 他 ()	
2	月 日 ()	テーマ	ねらい	
		内 容	学習方法	講 師
			<input type="checkbox"/> 講義 <input type="checkbox"/> 実技等 <input type="checkbox"/> ワークショップ <input type="checkbox"/> 他 ()	
3	月 日 ()	テーマ	ねらい	
		内 容	学習方法	講 師
			<input type="checkbox"/> 講義 <input type="checkbox"/> 実技等 <input type="checkbox"/> ワークショップ <input type="checkbox"/> 他 ()	
4	月 日 ()	テーマ	ねらい	
		内 容	学習方法	講 師
			<input type="checkbox"/> 講義 <input type="checkbox"/> 実技等 <input type="checkbox"/> ワークショップ <input type="checkbox"/> 他 ()	

5	月 日 ()	テーマ		ねらい		
		内 容		学習方法		講 師
				<input type="checkbox"/> 講義 <input type="checkbox"/> 実技等 <input type="checkbox"/> ワークショップ <input type="checkbox"/> 他 ()		
6	月 日 ()	テーマ		ねらい		
		内 容		学習方法		講 師
				<input type="checkbox"/> 講義 <input type="checkbox"/> 実技等 <input type="checkbox"/> ワークショップ <input type="checkbox"/> 他 ()		
7	月 日 ()	テーマ		ねらい		
		内 容		学習方法		講 師
				<input type="checkbox"/> 講義 <input type="checkbox"/> 実技等 <input type="checkbox"/> ワークショップ <input type="checkbox"/> 他 ()		
8	月 日 ()	テーマ		ねらい		
		内 容		学習方法		講 師
				<input type="checkbox"/> 講義 <input type="checkbox"/> 実技等 <input type="checkbox"/> ワークショップ <input type="checkbox"/> 他 ()		

令和6年度宇都宮市民大学専門講座企画書（学習プログラム）

講座名 サブタイトル	今こそ陶芸から学ぶ ～世界，地域，教育の視点から陶芸について考える～
企画の目的 必要性・効果 企画した講座の趣旨（ねらい）や全コマ受講した後の効果を記入。また、特にターゲットとする受講者等がある場合にはその旨も記入。	<p>この講座は、実は「社会貢献活動」のきっかけづくりを目的とする。東日本大震災以降、強く必要とされている、「人と人との絆」。現在も、被災地に対するボランティア活動などの取組が多く行われている状況であり、「絆」の再構築を契機として、社会教育の在り方を見直す契機であるとも言われている。</p> <p>この企画では、「陶芸」という文化的・趣味的な講座を前面に出しながらも、各講義の中で、陶芸を例示とした社会貢献活動に対する学びや、「ざぶん展」に参画することで、『地域貢献活動』の経験と『絆』の構築に自然と関わっていくこととなり、また、受講された方々の経験の伝承などをおして、その家族や友人を含め「地域活動」への参加や「社会貢献活動」への参加にも繋がるものと考え。</p>
講座概要 講座の概要を明記してください（パンフレット参照）	<p>陶芸の歴史は人の営みとともに古く、作陶技術は、時代を経て変遷し、生活に身近な器から心を豊かにしてくれる芸術作品までと、私たちのかかわり方も幅広いものとなり、地域の観光振興や文化交流などに貢献する重要な地域資源ともなっている。</p> <p>本講座では、国際的な視点から陶芸の歴史や文化を学んでいく。多くの被災を受けながらも、今に受け継がれ進化を続ける陶芸文化の力強さとその魅力に、グローバルな視点で注目していく。</p> <p>また、文星芸術大学が取り組んでいる陶芸を通じた特別支援教育現場との交流・地域活動等から、「陶芸の力が育む『人づくり』」や「陶芸の力が生み出した『ユニバーサルデザイン』」など、陶芸がもたらす様々な効果や効用を事例から学び、「陶芸」の今後の更なる可能性について学んでいく。</p>
実施に伴う課題・対応	<ul style="list-style-type: none"> 「ざぶん展」のバックヤード見学などがあることから、安全確保に十分に努める必要がある。実施に際しては、十分な事前の連絡調整、会場の下見などを事務局とともに実施することにより対応する。また、運営ボランティアの人数確保にも努める必要がある。 陶芸の実習を伴うことから、実習費が高額にならないよう、効果的・効率的な実施内容について、講師と調整・検討していく。
アピールポイント	<ul style="list-style-type: none"> 多くの方に人気がある講師から学べることから、定員を超える申込みが期待できる。 「陶芸」に興味をもって参加した方に対し、講義や作陶による充足・満足感などのいわゆる「個人の要望」に応えることはもとより、陶芸を通じた「人と人との絆づくり」や「社会貢献活動への直接参加」により、地域活動を積極的に盛り上げる人材の育成も行うことから、「社会の要請」にも寄与する大変有意義な講座であると考えている。

コマごとの学習の「ねらい」について簡潔に記入

回	期日	テーマ	ねらい	
1	11月1日 (火)	戦乱と陶の歴史 (西洋と東洋の境界線～トルコの風～)	トルコの陶芸文化の力強さとその魅力について学ぶ。	
		内 容 日本と同様に地震の多いトルコでは、陶器も多くの被災を受けている。しかし、長い年月をかけて伝統を受け継ぎ、進化を続けている様子を講師の撮影した映像を交えながら学ぶ。	学習方法 ■講義 □実技等 □ワークショップ □他 ()	講 師 〇〇大学 教授 〇〇〇〇 氏
	月 日 ()	テーマ	ねらい	
		内 容	<p>具体的に肩書きがわかるよう記入 【例】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・〇〇〇審議委員会委員 ・△△病院 理学療法士 <p>※未定の場合は、〇〇専門家、大学教授クラス等と記入</p>	
			□他 ()	

コマごとの講義内容について、簡潔に記入

具体的に肩書きがわかるよう記入
【例】

- ・〇〇〇審議委員会委員
- ・△△病院 理学療法士

※未定の場合は、〇〇専門家、大学教授クラス等と記入